

- 問1 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。 | 2. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。 | 3. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。 | 4. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。 |
|--|---|---|---|
- 問2 16世紀の戦国時代、室町幕府の権威が衰退する中で、各地の実力者である戦国大名が自らの領国を独自に統治するために制定した法律を何というか、名称を答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|--------|----------|------------|
| 1. 公事方御定書 | 2. 分国法 | 3. 御成敗式目 | 4. 塀田永年私財法 |
|-----------|--------|----------|------------|
- 問3 戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。（2024年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。 | 2. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。 | 3. これらの法律は、全国の戦国大名が合議によって作成した全国共通のルールであった。 | 4. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。 |
|--|---|--|---|
- 問4 豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐる北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。 | 2. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマル憲法が制定された。 | 3. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。 | 4. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。 |
|---|---|--|--|
- 問5 戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。 | 2. 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。 | 3. 元寇の際に、元軍が使用していた「てつほう」を日本側が改良して国産化した。 | 4. 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。 |
|---|------------------------------------|---|---------------------------------------|
- 問6 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること | 2. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること | 3. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること | 4. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|------------------------------------|
- 問7 1549年に現在の鹿児島県にあたる地域へ来航し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師の名前と、彼が所属していたカトリック教会の組織の組み合わせとして正しいものはどれか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------|----------------|-------------|-----------------------|
| 1. マルコ・ポーロ（東インド会社） | 2. ベリー（アメリカ海軍） | 3. 鑑真（唐招提寺） | 4. フランシスコ・ザビエル（イエズス会） |
|--------------------|----------------|-------------|-----------------------|
- 問8 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。（2025年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 大友宗麟 | 2. 北条氏康 | 3. 今川義元 | 4. 朝倉義景 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問9 戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くなされた背景として、最も適切な理由はどれですか。（2023年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。 | 2. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。 | 3. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。 | 4. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。 |
|---|--|---|---|
- 問10 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。（2017年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------|--------------|---------|------------|
| 1. フランシスコ・ザビエル | 2. ヴァスコ・ダ・ガマ | 3. マゼラン | 4. マルコ・ポーロ |
|----------------|--------------|---------|------------|
- 問11 戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため | 2. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため | 3. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため | 4. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため |
|--|--|---|---|
- 問12 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。（2021年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 | 2. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 | 3. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。 | 4. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。 |
|---|--|---|---|
- 問13 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|------|
| 1. 平戸 | 2. 長崎 | 3. 博多 | 4. 堺 |
|-------|-------|-------|------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問2	答え 2 分国法	戦国時代、守護大名に代わって実力で領地を支配した戦国大名は、家臣の統制や領国内の治安維持、年貢の徴収などを目的として独自の法を定めました。これは大名の支配権が及ぶ「分国（領国）」にのみ適用されたため、このように呼ばれます。選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、墾田永年私財法は奈良時代、公事方御定書は江戸時代のものです。
問3	答え 4 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	分国法は各戦国大名が領国の実情に合わせて個別に定めたもので、内容は多岐にわたります。朝倉氏の事例のように、家臣が勝手に拠点を作ることを禁じたり、役人（代官）を適切に配置したりする規定は、大名による中央集権的な支配を強める意図がありました。一方で、伊達氏の事例に見られるように、年貢の未納に対しては厳しい処罰を科すなど、農民に対しても強い統制を行っていました。
問4	答え 3 ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	日本の安土桃山時代における朝鮮出兵（1592年）と比較して、バスコ・ダ・ガマのインド航路到達は1498年（15世紀末）の出来事であり、約100年ほど早い時期に当たります。他の選択肢であるフランス革命は18世紀末、南北戦争は19世紀、ワイマール憲法の制定は20世紀の出来事であり、いずれも日本の江戸時代後期から大正時代にかけての事象です。
問5	答え 2 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつほう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問6	答え 2 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問7	答え 4 フランシスコ・ザビエル（イエズス会）	16世紀、宗教改革に対抗してカトリック教会の立て直しを目指したイエズス会は、海外への布教活動を積極的に行いました。その創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルは、インドのゴアを経て鹿児島に上陸し、日本での布教を開始しました。これが日本におけるキリスト教伝来の始まりです。
問8	答え 1 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問9	答え 4 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問10	答え 1 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問11	答え 2 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問12	答え 3 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行っていた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問13	答え 4 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。